

昭和29年の航空自衛隊発足時、米国から空自にF86Fジェット戦闘機が導入された。F86Fを日本の主力戦闘機として運用する中

当時の空自幹部から米国の航空機部品の販売会社と提携し、維持用の部品を空自に供給する会社を設立したらどうか」という進言があった。この声に応えたのが、旧陸軍出身の猿渡篤孝氏で、航空機部品や通信電子機器の輸入・販売専門商社「日本エヤークラフトサプライ」（本社、東京都新宿区）の創業社長だ。

「弊社は空自創設の4年後にできた会社ですので、防衛輸入専門商社の草分け的な存在として、自衛隊と共に歴史を歩んできたといえるでしょう」と栗原龍次社長は話す。

⑩

日本の防衛を支える

防衛関連企業が年間数千万もの部品を同社に発注。「ひとつひとつ、確実に良品を輸入し、納品していったことで信頼を勝ち取り、安定的な経営が続けられました。創業から現在まで、一度も赤字になったことはありません」と栗原社長。同社が輸入した特殊ケイブルは最新鋭の国産機にも使用されており、海自のP-1哨戒機にいたっては、数百

日本エヤークラフトサプライ株式会社 栗原 龍次社長に聞く

防衛輸入専門商社の草分け



百点のケイブルが同社の輸入品だ。「自衛隊側の事情、要望を我々商社マンが詳細に聞き、それをもとに海外当社では多く仕入れていま

のメーカーより部品を日本に輸入しています。航空機にも、装備品の国内ライセンス生産は下火に。部品の発注量も減少に転じ、同社では運用のニーズに合う新たな輸入品を見つけて出し、顧客満足度を上げる道を模索している。

「今、力を入れているのは敵味方識別装置用のシステム試験とシミュレーション、分析ができる試験装置です。使い勝手が良く、簡単に航空機搭載アビオニクス

の検証ができます」と栗原社長。「米軍やNATO（北大西洋条約機構）車は2020年までに機能を改良した新しい敵味方識別装置に換

「米軍やNATO（北大西洋条約機構）車は2020年までに機能を改良した新しい敵味方識別装置に換



同社が米国から輸入した航空機搭載アビオニクスの試験機器「T47M5」。戦術航法装置や空中衝突防止などの検証機能を備えている

「呼吸困難者の移送時に欠かせない装置で、すでに116台が陸自に納入されている。「熊本地震の際も、この装置は重宝した」との評価をいただいた。今年3月、日本エヤークラフトサプライは創業60周年を迎えた。栗原社長はこ

「創業当初は米国のみの取引でしたが、近年はイギリス、オランダ、フランス、ドイツ、イスラエルなど調達先が広がりました。広大な海外ネットワークを生かし、エンドユーザーである自衛隊の方々やメ

「創業当初は米国のみの取引でしたが、近年はイギリス、オランダ、フランス、ドイツ、イスラエルなど調達先が広がりました。広大な海外ネットワークを生かし、エンドユーザーである自衛隊の方々やメ

◇日本エヤークラフトサプライ株式会社

1958年3月創立。栗原龍次代表取締役社長。本社は東京都新宿区にあり、名古屋、大阪に支店を構える。従業員50人、資本金5000万円。社是は「誠実、信頼、感謝」。T47M5などの航空機部品、宇宙機器部品、通信電子機器の輸入・販売や一般産業用機械の輸出入・販売を手掛ける。

創業60周年 「敵味方識別装置」を試験、分析